

# 平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.55

2010.3.10

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019 - 684 - 2225

FAX019 - 684 - 2227

## 「沖縄・平和の旅」から感じた不条理

(9条をまもる岩手の会主催、2月10日～13日、16名参加)

3回目となった「平和の旅」は、戦争を体験された方の参加が多く、「沖縄戦の実態」が自分の体験と重なって「戦争は二度としてはいけない」と強く訴えていたのが印象的だった。

《なぜ今沖縄か》今、13年前に決められた普天間基地移設問題が政治の大きな課題になっている。民主党は今年の総選挙で、移設先は沖縄県外と公言したため、沖縄では当然の事として世論が動いている。

今年1月、移転先がある名護市の市長選挙では“辺野古移設反対”の市長が誕生した。沖縄県議会も反対決議をあげ、沖縄世論は大きく動いている。

日米関係の試金石と言われる普天間移設問題だが、「日米安保条約」の改定まで踏み込まないと解決しない様相である。この機会に、日米関係を見直すのが近道のように思うが、なかなかそこに行き着かないもどかしさがある。そのため、「普天間基地移設問題」の現場を自分たちの目で見るのが大切だ。



《今回の平和の旅で特に感じたこと》2月10日からの平和の旅は、飛び石連休のハザマに入ったが、米軍は関係ないだろうと思って企画したが、米軍は連休らしく残念ながら飛行機の爆音は聞けなかった。わざわざ北谷町のホテルに泊まり、海から湧き上がるように聞こえる訓練機の朝の轟音を期待したが、金曜日にもかかわらず、夜中に偵察機の音が多少聞こえただけだった。



しかし、辺野古では名護市平和委員会委員長の大西さん(写真)を押し倒して船に乗せてもらうことができた。海上からキャンプ・シュワブの様子や、V字案で埋め立てられる海の状況を説明してもらい、許せない思いを実感できた。透明な海にジュゴンのエサの藻が茂り、戦後住民の生活を支えた浅瀬は今も美しかった。

大西さんは、今回の辺野古基地は普天間の単なる移設ではなく、弾薬庫を持つキャンプ・シュワブを強大な新基地にするための口実だと強調した。

世界第二次世界大戦終盤、米は格好の軍需基地として沖縄を狙い、雨のように銃弾を打ち込んで住民を殺し、戦後、土地を没収した。今また新たな戦略基地として沖縄から出ようとしない。思いやり予算の中でぬくぬくと居座り続けるどころか、政治的に脅しをかけている。そして、キャンプ・シュワブを中心に陸上案まで飛び出してきている。

いつまでも東京から遠い“島”であるがゆえに、沖縄を捨石にしていることは許されない。沖縄に行き、沖縄戦の実態を自分の五感で感じ、沖縄住民のやるせなさを思うことで、自分たちの平和を守る事とつながっていることを実感したい。有刺鉄線の向こうはキャンプ・シュワブ。全国から訪れる人のメッセージがびっしりと



平和憲法・9条をまもる岩手の会 事務局(岩手県消費者団体連絡協議会 事務局長) 伊藤 慶子

### 戦争も基地もいらない 3・20世界の平和を願う市民のつどいin岩手

海兵隊員として沖縄に駐留した経験を持ち、今は沖縄を拠点に平和活動続ける作家・政治学者のダグラス・ラミスさんをお招きします。ピースパレードもあります！ 3月20日(土)10:00～12:10 岩手県公会堂 (参加無料)

# 古館、矢巾の会が全体会で活動報告



2月20日(土)、初めてとなる「東北ブロック九条の会交流会」が仙台で開催され、岩手からは地域の9条をまもる会など7団体と事務局の12名が参加しました。これまで東京で開催されていた「九条の会全国交流集会」が、今回は活動の濃密な交流を目指しブロック別の交流会として中国、関西、関東など各地で開催されています。

東北ブロック交流会には167名が参加。全体会で10の会が活動を報告し、岩手からは憲法9条を守る古館の会(紫波町)と矢巾九条の会が報告しました。(以下、事務局が要約)



## 「学校区ごとに会の結成を目指した運動と古館の会の活動」

憲法9条を守る古館の会  
佐藤隆五郎さん

2005年7月に紫波町全体の九条の会として「憲法9条をまもる紫波町民の会」が発足、最初から小学校区ごとに九条の会を組織することを目標に掲げた。紫波町には小学校11校、中学校3校あり、この4年間の運動ですべての中学校区に会を結成し、小学校区では古館地区に05年12月8日、会を結成。もし国民投票に付されても、地域の多数派を形成しそれを阻止する力を作り上げることをめざしてきた。そのために、会のニュースを毎月発行し地域310世帯(11%)に手配りで届ける活動、町内会単位で「戦争体験を語る会」・DVD上映、9の日古館駅前での宣伝、学習講演活動などに取り組んでいる。活動が広がると財政問題が大きな課題となるが、現在は会員の協賛金やカンパなどで賄っている。若者と女性の参加も広げていきたいと思っている。

## 「町民ぐるみの運動で“いのちの山河”上映を成功させた経験」

矢巾九条の会  
佐藤征克さん

結成4周年記念事業として「いのちの山河」上映運動を行うことを決めていたが、町民ぐるみの運動とするには、それなりの体制と心をつにするスローガンが必要と思い、「“いのち”(憲法25条)と“平和”(憲法9条)は町づくりの土台」とのスローガンを掲げ、思想信条、党派、宗派を超えた実行委員会を結成した。

前売券を3枚、5枚持ってくれる協力者を広げることに専念し、半ば押し付けられた思いでいた方も、映画を観ると「ご苦労さん、いい映画だった」と声をかけてくれ、この取り組みを通して九条の会への入会も10名を超えた。スローガンが、矢巾町民に真正面から受け止められ対話が深まったことが実感できる。前町長、元県議も実行委員会に加わり、現町長らが応援するという大きな仕掛けで取り組んだが、この映画の性格上、どこでもこのような取り組みは可能であろう。

(矢巾町では1月9日上映会に1,476人が鑑賞しました)

## 4月から街頭での署名行動を再開します

4月9日(金)昼時間・大通りの予定 次号ニュースで詳しくお知らせします。是非参加ください!